

# あれこれかあ



ICHIKAWA LIBRARY

参考業務月報

2024年5月号

発行：市川市中央図書館 編集：レファレンスカウンター 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 TEL. 047-320-3346

	INF	REF	子ども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
5月	829	491	453	108	4	1,885	698	64	155	256	85	453	3,596
累計	1,571	905	909	163	9	3,557	1,344	121	317	498	172	885	6,894

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

## 📖 今月のレファレンス記録票から

分類 質問と内容

210.3 飛鳥時代や奈良時代の人々の食事や暮らしなどについて書かれた本はあるか。

飛鳥時代の食事について、『飛鳥むかしむかし 国づくり編』（奈良文化財研究所／編 早川和子／絵 朝日新聞出版 2016）p.131「飛鳥の食編 現代の和食に通じる古代食」に飛鳥時代の食の復元例として、「奈良文化財研究所の藤原京跡資料室では「貴族の食事」「役人の食事」「庶民の食事」という三つの献立を展示しています。貴族の食事は白米にアユ、タイ、アワビなどが並び豪華ですが、下級役人の献立は玄米、イワシ、酢の物、塩漬け、それに汁物と、やや簡素です。庶民の食事は玄米にゆでた野菜、それに海藻の汁物しかありません。これらに共通しているのは米が主食であることと、海藻類や魚介類を多く用いていることで、身分によって品数がかかなり異なるものの、現代の和食に通じる献立となっています。」とある。

奈良時代の食事は、『古代の都 2 平城京の時代』（田辺征夫／[ほか]編 吉川弘文館 2010）p.121の「食と食器 下級官人の食生活」の項で、「当時の食物品目については、正倉院文書や調の貢進物付札木簡から知られる。主食は米で、副食はほとんどが乾物や加工品で魚類や獣肉の干物と海藻類、野菜類であった。身分制は、食生活の方面でも徹底し、『延喜式』鎮魂祭雑給条などから、五位以上の貴族と六位以下の下級官人に給された食物種類と支給量にも大きな差があったことが知られる。」との記述がある。

また、飛鳥時代の暮らしについては、前出『飛鳥むかしむかし 国づくり編』p.147「都市の暮らし編」、『飛鳥藤原の都』（狩野久／著 木下正史／著 岩波書店 1985）p.133「一庶民のみた藤原京」やp.157「都の生活はどのようなものだったか」に記述がある。

奈良時代の暮らしは、『図説平城京事典』（国立文化財機構奈良文化財研究所／編 柘風舎 2010）のp.173「第4章 暮らし」に、「衣」「住」「娯楽」「環境」の項目があり、それぞれ詳しく書かれている。この他、前出『古代の都 2 平城京の時代』p.116「貴族と庶民の暮らし」や、『平城京の「謎」』（武光誠／監著 主婦と生活社 2010）p.149「平城京は貴族と庶民の格差社会」に記載があるほか、『平城京再現』（坪井清足／[ほか]監修 新潮社 1985）には、全編にわたり豊富な絵や写真が掲載されている。

226.6 オスマン帝国（1299年～1922年）の軍隊について知りたい。

『オスマン・トルコの軍隊』（デヴィッド・ニコル／著 アンガス・マックブライド／彩色画 桂令夫／訳 新紀元社 2001）には、1300年から1774年の約500年間のオスマン軍の推移について、詳しい記述と鎧や武器などの図や写真が豊富に掲載されており、「イエニチェリ軍団」や「オスマン海軍」等についての記載があった。

「イエニチェリ軍団」について、『世界大百科事典 2 改訂版』（平凡社 2005）p.117「イエニチェリ」の項に、「オスマン帝国における常備歩兵とその軍団。（中略）1345年以後オスマン朝のバルカン領土が拡大すると、新たな戦力の補給とバルカン諸民族の同化政策とを兼ねてこの軍

団が創設された。最初、戦争捕虜の 1/5 が戦利品として国庫に属したことから、これをトルコ人の家庭に預けてトルコ語とムスリムとしての生活習慣とを身につけさせた後、軍団員として登録した」と書かれている。

また、「オスマン海軍」については、『ブリタニカ国際大百科事典 13 第 3 版』（フランク・B・ギブニー／編集 TBS ブリタニカ 1995）p.643 に「オスマン帝国艦隊はバヤジッド二世の時代に強大となり、1499 年から 1503 年にかけてのベネチアとの戦いには大いに成果をあげた。」との記述がある。

『世界海戦史』（ヘレン・ドウ／著 甲斐理恵子／訳 原書房 2024）には、p.24-31「1571 年 レパントの海戦」、p.196-202「1827 年 ナヴァリノの海戦」について、それぞれ詳細な記述があり、当時の海戦の様子が描かれた絵画等が掲載されている。

『岩波講座世界歴史 21 イスラーム世界とアフリカ』（樺山紘一／[ほか]編集 岩波書店 1998）p.211-228 に収録されている論文「オスマン海軍の十九世紀近代化をめぐる一」（小松香織／著）には、「こうした惨状は、十九世紀初頭以来オスマン帝国海軍が努力してきた近代化が成果を上げていなかったことの証左に他ならなかった。」とあり、オスマン海軍の近代化への試みと挫折の過程についての記述があった。

## 他にもこんな質問ありました（クイック・レファレンスから）

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
I/L0	市川市の「ボクソン光学株式会社」について、何か記録はあるか。	⇒『市川市商工名鑑 1971 年版』（市川市役所商工課／編 市川商工会議所 1971）「金属製品」p.126 に「(株) ボクソン光学工業」として、代表者名・所在地・電話・従業員数 C（1 人～20 人）などが記載されている。
134.4	ドイツの哲学者 E.ヘーゲルが『精神現象学』の中で展開した自由と権威の関係についての示唆的な議論「主人と奴隷」について、短く解説している資料はないか。	⇒『ヘーゲル用語事典』（岩佐茂／[ほか]編 未来社 1991）p.221「主一奴[僕]」の項、『ヘーゲル事典』（加藤尚武／[ほか]編集 弘文堂 1992）p.225「主人と奴隷」の項、『コンサイス 20 世紀思想事典』（木田元／[ほか]編 三省堂 1989）p.438「主と奴」の項で、それぞれ解説が記されている。
494.6	大腸がんの手術後のケアと食事について書かれた本を探している。	⇒『大腸がん病後のケアと食事』（上野秀樹／監修 法研 2019）、『大腸がん手術後の 100 日レシピ』（森谷亘皓／医療解説 桑原節子／栄養指導 重野佐和子／レシピ・料理作成 女子栄養大学出版部 2010）、『最新大腸がん治療』（福長洋介／監修 主婦と生活社 2017）、『大腸がん・大腸ポリープ再発予防のおいしいレシピ』（重野佐和子／著 赤須孝之／医学監修 法研 2007）等を紹介。
913.6	「ダットンヒョウリュウキ」というタイトルの本を探している⇒「ダットンヒョウリュウキ」で検索すると、『韃靼漂流記』（園田一亀／著 平凡社 1991）がヒットしたが、著者は司馬遼太郎であったはずとのこと。「韃靼」「司馬遼太郎」で再度検索し、『韃靼疾風録』（司馬遼太郎／著 中央公論新社 1999）を紹介。	
E	『ぼくにげちゃうよ』という絵本はシリーズものだと聞いたので、シリーズがあるなら読みたい⇒『ぼくにげちゃうよ』（マーガレット・W・ブラウン／ぶん クレメント・ハード／え いわたみみ／やく ほるぷ出版 1978）は、シリーズではなく独立した作品であるが、同じ作者と画家が手がけたうさぎの親子が登場する作品として、『おやすみなさい おつきさま』（マーガレット・ワイズ・ブラウン／さく クレメント・ハード／え せたていじ／やく 評論社 1979）やその姉妹編である『ぼくのせかいをひとまわり』（M.W.ブラウン／ぶん C.ハード／え おがわひとみ／やく 評論社 2001）を案内。	
E	韓国の作家が描いた絵本が読みたい⇒「韓国」「絵本」などのキーワードで検索し、『ふわふわくもパン』（ペク・ヒナ／文と絵 キム・ヒャンス／写真 星あキラ キム・ヨンジョン／共訳 小学館 2006）や、『とらとほしがき』（パク・ジェヒョン／再話・絵 おおたけきよみ／訳 光村教育図書 2006）を紹介。	